

かた  
潟

かた  
語

り  
(三十六)

文・小西一三  
絵・小西由紀子

### 八竜橋の番人、ハシバノエ

潟上市天王、自性院の近くに住む真崎敬一郎さんは、年配の人たちから「ハシバ」「ハシバノエ」と呼ばれています。ハシバとは橋番の略で屋号は「橋場」。真崎家はかつて天王と船越を結ぶ八竜橋の番人を勤めた家だったといいます。敬一郎さん(76)にお聞きしました。

#### 残念だとも、古い資料は焼けてしまったんだ。

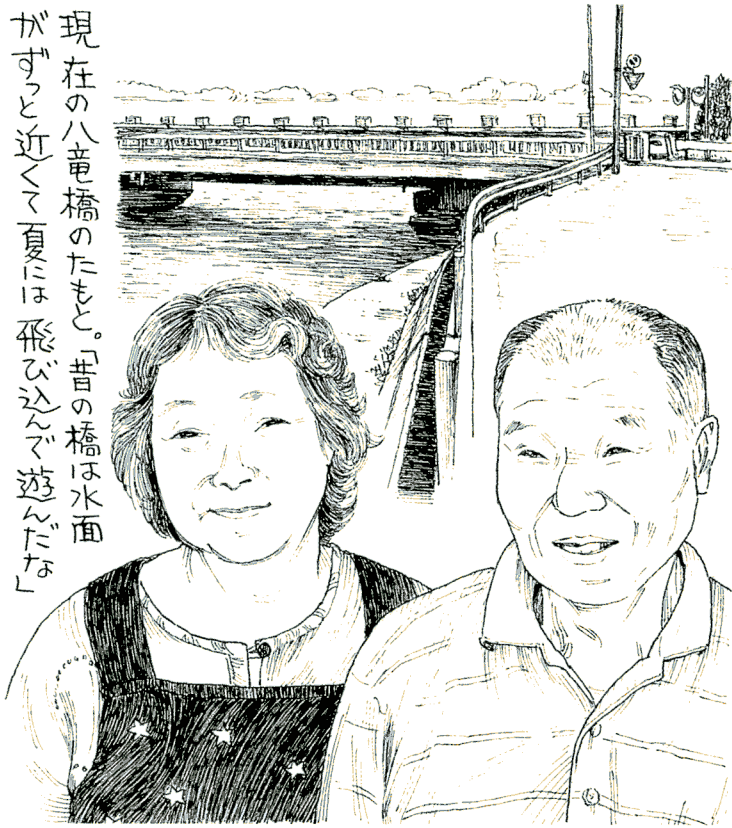
じいさんや母親から聞いていだとも、先祖は士族。佐竹の殿様について秋田にやってきた武士だったそうで、橋番をしていたというのは聞いています。子どもの頃、母親に連れられて秋田市の榎山にある真崎家に2、3回行ったことがあるども、その家が本家だというんだな。

平成元年にお寺の裏の方に引っ越したども、それまでは八竜橋の近く、土崎方面と大久保方面の分かれ道の前に住んでいた。住所は天王81番地。子どもの頃、橋のたもとは一面の葦原でな、今のように家はなかった。その頃はもちろん橋番をする人はいなかった。橋の上を通る車といえは乗り合いバス程度。ほとんど歩きの人だったな。じいさんは橋の近くに潟船を繋いで漁師もしていた。このじいさんはよく橋の上から投網を打つ人でな。網を打つていれば近所の子どもたちがたくさん集ってきたもんだ。そのじいさんの先代は役場に勤めていたそうす。その頃だべがな、橋番をしていたのは…。

残念なことに昔の資料はまったく残ってねんだ。おれが尋常小学校に入っている頃、家が火事ですっかり焼けてしまったの

よ。焼ける前の家には刀なんかがあったのは覚えてる。橋がかかったのは明治時代になってからだすべ。それ以前、天王と船越を結ぶのは渡し船。うちの先祖は何をしていたもんだすべ…。もしかして、渡し船に乗る人たちが集る待合所の番人でもしていたもんだすべがな。

※昭和49年に発行された天王町史によると、現在の場所に八竜橋が架けられたのは明治11年12月11日。天王村と船越村が負担したのは当時の金で三千七百十九円50銭3厘。両村ではこの借金を返済するため県の許可を受けて「橋銭」をとることになった。これは県内初の有料道路といえるかもしれない。ちなみに「橋銭」は歩行者1人1銭、人力車1輛2銭、牛馬1頭2銭、そり1丁、2銭、長持1棹3銭だったとか。



現在の八竜橋のたもと。「昔の橋は水面がずっと近くて夏には飛び込んで遊んだな」